

# 企業ニュース 信越化学工業

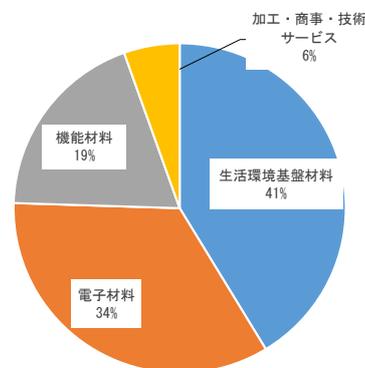
(東証プライム: 4063) <https://www.shinetsu.co.jp/>

作成者: 兵藤三郎

## 素材系化学メーカー

1926年、信越窒素肥料として発足した素材系化学メーカー。長野県(信濃)の豊かな水力が生み出した電力と新潟県(越後)・親不知の石灰石から化学肥料・石灰窒素を生産。1940年に現在の社名に改称した。現在の事業セグメントは右図の通り。生活環境基盤材料における塩化ビニル樹脂(以下塩ビ)と、電子材料における半導体シリコンウェーハが主力製品。塩ビはインフラ、住宅用途に用いられ、世界第1位のシェアを持ち、米国シンテック社を中心に展開している。旺盛な需要が続く半導体シリコンウェーハは、さらなる顧客からの要請に対応するため価格改定を織り込んだ長期契約に応じた能力増強投資を進めていく模様。その他、単結晶シリコンの製造工程で用いられる石英るつぼ、フォトレジスト(感光材料)、フォトマスクブランクス(原版)、封止材などの半導体材料も手掛けている。

◇22. 3期売上高構成比



(出所) 信越化学工業資料よりCAM作成

## 半導体シリコンウェーハの価格改定が業績をけん引

22. 3期の連結業績は売上高が2兆744億円、前期比39%増、営業利益が6,763億円、同72%増。全セグメントで増収増益となった。特に、生活環境基盤材料事業が同76%増収、営業利益は3.2倍に拡大。世界的な塩ビ需要の伸長がけん引。塩ビは定期修繕期間を除き全拠点でフル操業を継続、継続的に実施した製品値上げも収益寄与した。電子材料では、電子デバイスの世界的な供給不足が依然解消せず、繁忙な状況が続いている。

23. 3期連結業績の会社計画は、現時点で通期予想を合理的に行うことが難しく非開示とされたが、堅調な電子材料事業が業績をけん引することが見込まれる。ひっ迫しているシリコンウェーハの需給改善は、当面の能力増強が競合他社も含め、効率化などの逐次増強に限られていることなどを勘案すれば、2024年以降となろう。会社側が進めている長期契約に基づく価格改定がさらに進捗しよう。経常利益の為替感応度は米ドル1円の円安で年間49億円との会社試算。塩ビ事業では米国の住宅需要の減速懸念などはあるが、比較的堅調な推移が期待できよう。

### [株価動向・投資判断]

半導体シリコンウェーハの価格改定を伴った長期契約が徐々に浸透している模様。同事業の収益性向上が中期的な業績をけん引しよう。今後の能力増強投資の計画にも注目したい。

<4063 信越化 業績: 日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
21. 3	1,496,906 (▲3)	392,213 (▲3)	405,101 (▲3)	293,732 (▲6)	706.8	250.00
22. 3	2,074,428 (39)	676,322 (72)	694,434 (71)	500,117 (70)	1,203.8	400.00
23. 3 予	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	-	未定

(注) 23. 3期・予の業績及び配当予想は、開示が可能になった時点で開示予定



[主要株価指標]	(売買単位: 100株)
株価(2022/6/10)	18,115 円
年初来高値(高値日)	20,670 円(22/1/4)
同 安値(安値日)	15,860 円(22/3/8)
予想 P E R (22. 3 予)	- 倍
1株株主資本(PBR算出用)	8,063.6 円
P B R	2.25 倍
予想配当利回り	- %
(1株当たり配当金 未定)	
R O E (22. 3)	16.3 %
発行済み株式数	41,666 万株